

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
清風クラブ2階研修室（渋谷区上原3-32-6）
会場整理費：700円 問合せ：03-3465-0671

10月14日（土） あらためての仏教入門 ーブツダからメッセージが届いています [清風クラブ]

黒川文子 先生 東方学院講師

10月28日（土） この世とあの世ー大悲心による世界の二重化 [中野サンプラザ]

本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

11月10日（金） この世とあの世 [中野サンプラザ]

南直哉 先生 曹洞宗霊泉寺住職

※第2金曜日の平日開催となりますのでご注意ください

11月25日（土） この世とあの世と現生・来生ー親鸞聖人の往生観に向けて [中野サンプラザ]

華園聰麿 先生 東北大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

11月17日（金） 「地獄を拜む思想ー白隠禅師と法華経」
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

3月16日（金） 調整中

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

11月15日（水） 演題未定
林淳 先生 愛知学院大学教授

2月21日（水） 調整中

いのち尊し

金子大栄先生の御遺訓ー忍について

永尾 雄二郎

（医師、一九二五年生まれ）

第6号
いのち尊し
平成29年10月1日
一般社団法人 在家仏教協会
〒151-0064 東京都渋谷区上原3-32-6
TEL 03-3465-0671
FAX 03-3465-0672

金子大栄先生は昭和五十一年（一九七六年）十月二十日、九十歳で浄土にお還りになられました。

その年の四月、「話しておきたいことがあるから」とのお招きを受けて京都のお住まいにお訪ねしました。先生は元気に一時間あまりにわたってお話し下さいました。「忍とは解るといふことです」

唯識論の祖師といわれる世親（天親、四世紀頃）の著『俱舍論』の中にみられる「忍・知・見は慧の別名なり」という言葉を引用され、そこからいろいろとお説き下さいました。「慧」というのは智慧の慧です。仏法の三慧では「智慧・慈悲・方便」といわれ、智慧は無我、慈悲は相手の立場に立つて、方便は善処する、ということ

です。「忍・知・見」を重ねて考えてみますと、「忍」は「慈悲」に相当すると申せましょう。「相手の立場に立つ」ということは「相手の心が解る」ということです。衆生の心の了解、それは「大悲の本願」の心であり、本願をいたたくものの心に無理なく自然に現れる心であります。

世間的には「忍」は忍耐ということ、耐え忍ぶ、じつと我慢するといった意味に使われておりますが、そこにはどこか重苦しい無理があります。金子先生は「忍とは解るといふこと」と教えて下さいました。

冬は寒いと解れば我慢も出来るし、夏は暑いと解れば耐えてもゆける。人は思うようにはいかない悲しいものだ、死ぬものだということが解れば悲しみにも耐え、ま

「忍は、自然の道理である」と申せましょう。『歎異抄』の第十條の中に、「悪ろからんにつけても、いよいよ願力を仰ぎまいらせば、自然の道理にて、柔和忍辱の心もいでくべし」とあります。これが忍の心なのです。一口でいふならば「柔軟心」と申したらよいでしょう。

＊

「自然の道理に相かなわば、仏恩をもしり、また、また師の恩をもしるべきなり」と『歎異抄』第六章にありますように、柔軟な心なればこそ恩をしるわけであり、またそれが「一切の有情は、みなもつて世々生々の父母兄弟なり」（第五章）という人類平和の心の原点と申せましょう。

忍という言葉は日本語で「忍ぶ」と読みます。亡くなった方に対しては「おしのび申し上げます」と

「忍の心」とは、柔軟心であり、忍ぶ心であり、おもいやりの心であり、永遠感情であり、また、知恩報徳の心であります。

「忍の心」とは、柔軟心であり、忍ぶ心であり、おもいやりの心であり、永遠感情であり、また、知恩報徳の心であります。

忍という、そういう広い世界が解つたならば、知識は違つていても、意見は違つていてもよろしい。あなたの言うことも解りますよという相互の了解が成り立ちます。そこでは争いはありません。こういう人のことを「仏言広大勝解者、是人名分陀利華（正信偈）」と、仏さまは誉めて下さっております。

＊

金子大栄先生が最晩年に最後の御遺訓として御教示されたことは「本願を信じ念仏を申すならば」「忍」の世界に入ることが出来る。「忍」とは解るといふことです。

「忍」といふ言葉の中に深い仏法の根源の意味があるということをおぼろげに感じながら、人生の道しるべとしていきたいと思っております。

仏教と私

大変お世話になりました

齊藤初恵

(事務局元職員)

加藤辨三郎会長のお名前を記憶に刻み始めたのは入社前の自宅の仏間からだ。空の骨箱のみでビルマより帰還した祖父の月命日に、長年おつとめをしていたことをご任職様へ就職が決まったことを報告した。「ほおー、それはおめでとう。あの会社は加藤辨三郎さんという大変立派な方がやっておりますのですよ」とのこと。その後何度もそのお名前に触れる環境に身を置く廻り合わせがあるうとは思ってもよらなかった。

医薬品を基幹に多角的な事業を展開する協和発酵工業(当時)入社後の配属先では、t(トン)の単位が飛び交う石油化学製品の陸上及び海上輸送のデリバリーに従事した。その後異動の食品部門では、発売当初僅か七・五グラムのフリーズドライ「たまごスープ」の勢いに驚きのなか販売に携わった。それまでの営業畑とは一転、平

成十一年八月に出向を命ぜられた「在家仏教協会」の第一印象を比喻するならば、東京のど真ん中、大手町にあって人里離れた山奥の小学校の教員室のようなところだった。トンやグラムの世界ではない、それでいて大きな何かに包まれて

いる凜とした空間のある謎の職場であった。事務局長だった内藤喜八郎さん、また「女性のための仏教講座」受

講後に近隣の新聞社から協会へ転職なさった倉岡不二枝さん。長年協会に尽くされ、初代理事長である加藤辨三郎翁を尊敬してやまないご両名のお人柄はもとより、真摯に執務に取り組む姿勢に次第に感銘を受けていった。

出納経理業務を経て平成十四年四月、倉岡さんから会員様の窓口、講演会東京会場受付の看板娘(?)などを引き継ぐこととなった。以来さまざまな媒体を通じ、全国や諸外国から寄せられた「協会の存在のお蔭で今日がある」「生かされている」など、人生ドラマに寄り添うお声に触れるなか、九月末の退職を目前に振り返ると、感嘆したり感涙したりで、多くの方々からご教導いただいた十八年間であった。

この一冊

『政治』の危機とアーレント

佐藤和夫著 (大月書店)

菅原 伸郎 (元新聞記者)

ハンナ・アーレント(一九〇六〜七五)は、ナチス時代を生き抜いたドイツ系ユダヤ人だ。『全体主義の起源』(みすず書房)で知られるようになったために左翼の女性と見られがちだが、その主著『人間の条件』(ちくま学芸文庫)などを読むと、そう単純ではない。私も何度か挫折したその難解な思想をこのたび、佐藤和夫・千葉大名誉教授が解き明かしてくれた。副題に「『人間の条件』と全体主義の時代」とあり、この主著を軸に論述を進めていく。

アーレントは、古代ギリシャで開かれていた「話し合い」を理想としつつ、ヨーロッパ社会に広がったナチズム、さらにはソ連型の社会主義を批判していく。たとえば、マルクス主義の「私的所有」は個人の物質的財産を指すのだろうが、アーレントは「自分らしさのためプライヴァシー」といった意味

でも使っている、と佐藤氏は紹介する。もつとも考えさせられたのは、

アーレントが孤立solitation/孤独loneliness/単独solitude——といった似た言葉を使い分けている、との指摘だ。たとえば、政治的な「孤立」は必ずしも不名誉ではない。世に見捨てられた「孤独」は悲しいとしても、山道を「単独」で歩くことはかけがえのない時間である。改めて、一人でいることは何としても大切にされなければならぬ、と思った。

偉大な宗教者は一人であることをご好んだ。アッシジの聖フランチェスコはしばしば小鳥や動物と語り合った。道元は鎌倉幕府からの招きを「聞きたいことがあるなら(永平寺まで)来れば良い」と断る。親鸞は「主上臣下、法に背き義に違し……」(教行信証)と時の朝廷に距離を置く。振り返れば、

積尊も政治の道を捨て、まずは個人の完成を目指したはずだ。この地球がどうなっても良いわけではない。しかし、世界の行く末しか考えないのも性に合わない。右であれ、左であれ、いわゆる大衆化の波に流されたくはない、と思ひ直したのだった。

在家仏教通信

臨時総会を開催しました

在家仏教協会では、会員による臨時総会を九月二十八日(木)午前十一時から東京都渋谷区上原の清風クラブで開催しました。

当日は十名の会員の皆様が出席され(他に委任状出席三百四十名)決議事項として、定款第二条、第三十条、停止条件付定款、役員報酬規程の変更について審議いただきました。

会員の三分の二の賛成が必要な特別決議でしたが、すべての議案を承認いただきました。皆様のご協力に感謝いたします。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 積尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 積尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

これにより、公益認定に向けて一歩前進することができました。また、千代田区への事務所の移転も承認いただきましたので、十一月月上旬を目途に引越しの準備を進めたいと思います。

会費の支払いが「コンビニでも可能に」

十月より会費の請求業務をリコーリース株式会社に委託することになりました。会員の皆様への請求書はリコーリースよりお届けいたします。

これにより、会費はコンビニでもお支払いが出来るようになります。もちろん、郵便局での支払いは従来通りです。なお、皆様の個人情報、請求書のお届けの目的

の範囲内でのみ利用させていただきます。

入会のご案内

協会では会員を募集しております。私どもは、皆様の会費と寄付によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

- 年会費
- 賛助会員 一万七千円(一口)
- 正会員 八千円

月刊誌「大法輪」を毎月お届けいたします

在家仏教講演会の筆録が掲載中

機関紙「いのち尊し」を毎月お届けいたします

- 講演会の動画を視聴出来ます
- 東京会場を中心に三十本配信中国会六十周年記念誌
- 『講演集』悲喜をよめる
- 『対談集』掌を合わせて生きる
- を進呈します

「いのち尊し」投稿規程

◇随想「仏教と私」(八百字まで、または千五百字まで)
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。
◇コラム「この一冊」(六百字以内)
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

* 原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は〒151-0006 4 東京都渋谷区上原3-32-16 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールは info@zaikebukkyo.com